



東中田

9 月 号

平成 28 年 8 月 29 日

横浜市立東中田小学校

校長 芝 フク代

TEL. 802-0500 FAX. 801-4089

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

粘り強さが成長の力に！嫌なことにもトライを！

校長 芝 フク代

第 31 回夏季オリンピック・リオ大会の開会式が 8 月 5 日行われました。4 年前のロンドン大会では、聖火台が「たんぼぼの花」をイメージして創られていたのを思い出しました。踏まれても踏まれても起き上がるたんぼぼの花のように「希望」をテーマにしている、共感したことを覚えています。リオ大会では、「太陽の輝き」をモチーフに太陽の熱量を力にした情熱を表した聖火台に南米らしさを感じました。4 年後の東京大会では、どんな聖火台になるのかと今から楽しみです。

リオ大会が始まってすぐに競泳の萩野選手が 400m 個人メドレーで金、瀬戸選手が銅メダルを獲得しました。日本選手が 2 人も一緒にメダルを獲る快挙を成し遂げた瞬間、大きな声で「やったあ」と叫んでいました。小学校時代からのライバルであった 2 人がこのリオ大会で同じ表彰台に立つことがすごいと思いました。これまでのいろいろな困難を乗り越え、日々の努力が報われたその笑顔が、光り輝いていました。その後も感動的な歴史に残るシーンが続出の素晴らしい五輪でした。

本校でも、7 月 28 日(木)に区の水泳大会が行われました。夏休みが始まったと思ったら不安定な天候が続き、練習もあまりできませんでしたが、そんな中で 5 年生の小山凜世さんが背泳ぎで区大会新記録を出しました。8 月 25 日(木)に行われた市水泳大会でも市大会新記録が 5 種目から出ました。4 年後の東京大会では、この子たちが選手として活躍してくれるのではないかと今から胸を熱くしています。



先日の読売新聞に全国高校総体の開催に合わせて女子マラソン五輪「銀」「銅」メダリストの有森裕子さんのメッセージが掲載されていました。「好きで楽しいことに熱中するのが、いつも正しい選択とは限らない。嫌で苦しいことにも興味を見出してトライしてほしい。諦めさえしなければ、人間は必ず変化を起こせる。必死になって踏ん張れば、自分を変え、成長させていける。走るのが好きという単純な欲求だけで続けた訳ではなかった。正直練習は苦しくて嫌だった。嫌だけど『何のためにこんな苦しい思いをするのか』と興味をもって必死で取り組んだ。そうするうちに、意外な発見をした。そんな連続だったように思う。(中略) 親も(子どもを)長い目で見守ってほしい。やりたいことに取り組む姿勢をよしとする風潮があるが、そう単純化しないでほしい。やりたくないことから何かを発見し、力にできるのが人間という生き物だ。」という主旨のメッセージでした。

私は好きで始めた教師の仕事です。子どもたちの笑顔や大きな成長を見る度に教師をやっていてよかったと思います。でも、若い頃にはこんなことがありました。一生懸命にやればやるほど子どもたちの反発や保護者との意思疎通がうまくいなくてどうしたらよいかと深く悩み、職場の先輩に相談したり、子どもたちへの対応を自分なりに工夫したりすることで、何とかよい方向に進んでいくことができました。そんなことを繰り返す中で、何かしら自信のようなものも芽生え、子どもたちへの対応も以前よりも積極的に行えるようになりました。

自分の好きなことを毎日こつこつと努力し続けることは自分磨きの基本的なことだと思いますが、苦手なこと、時には嫌なことにも敢えてトライし、粘り強く取り組む中で目標を達成していくことも大変意味のあることだと改めて実感しました。

ご家庭でも、自分で決めたことに向かって頑張っているお子さんが、粘り強く取り組めるよう、見守り励ましていただければと思います。